

令和2年度

埋蔵文化財調査士補 資格試験

【Ⅱ】 小論文問題・答案用紙

【Ⅱ】 次の設問から2問を選び答案用紙に選択した問題番号を記入の上、それぞれ400字以内で述べなさい。（横書きで記述すること。）

- ① 調査担当者（文化財保護法第92条）として、想定外に遺構・遺物が確認されたような場合、どのような対策が必要か述べよ。（自らの考えも含めて良い。）
- ② 人骨の年代測定を行う場合に、試料選択等において注意する点を述べよ。
- ③ 発掘調査の測量・計測におけるデジタル化の具体例とその利点について述べよ。

| 受験番号 | 氏名 | Ⅱ（選択番号） | |
|------|----|---------|--|
| | | | |

試験日：令和2年10月24日（土）

会場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

II 小論文

①調査担当者（文化財保護法第 92 条）として、想定外に遺構・遺物が確認されたような場合、どのような対策が必要か述べよ。（自らの考えも含めて良い。）

以下のついて触れていること。

①行程や予算に影響すると思われた場合、その原因や変更数量などを分析し、②社内・外に報告をしてその対策を講ずる。③必要であれば三者協議を行い、調査仕様から行程、予算などを協議する。④その結果、正当性があれば変更契約などにもって行く。
ただし、そこまでいかない場合は当然ある。その時、担当者、組織の考えが必要になる。

②人骨の年代測定を行う場合に、試料選択等において注意する点を述べよ。

記述問題のポイント

- ・焼骨は原則として分析不可
- ・高温で焼かれたものは良い結果が得られることもある
- ・安定同位体比を併用すると良い

この 3 つが書かれていれば満点。

(例)

焼骨は基本的にコラーゲンが焼失しているためできないが、高温で焼かれた場合は、骨中の炭酸塩を測定することで、良い値が得られることがある。また、食性によって値がずれるので、安定同位体分析を行うのが良い。

③発掘調査の測量・計測におけるデジタル化の具体例とその利点について述べよ。

以下のいずれかに言及していること

- ①機械力の導入と同様に、デジタル化による効率化が発掘調査を大きく変化させている。
- ②トータルステーション、レーザースキャナ、写真計測（SfM-MVS 法）、無人航空機などの機器・技術の導入が進んでいる
- ③測量・計測機器等から直接コンピュータに情報を取り込み、編集加工等ができるため工数の削減や、入力・転記の際のエラーを回避できる
- ④発掘調査～整理作業、報告書作成まで一貫した工程で扱うことができるため、作業工程の効率化に適している。